

第28回 機械要素技術展(M-Tech)へ出展!

6月21日(水)~23日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催されました第28回機械要素技術展に地元企業13社が出展し、優れた製品・技術を全国にPRしました。



(株)アドテックエンジニアリング

コロナが第5類となり開催となった機械要素技術展ということで、来場者も多く活気があり全体的に賑わいを感じた。私自身、初めて展示会に参加させていただきお客様のニーズがどこにあるのかで聞いて良い機会でした。NAZE事務局及び関係者の皆様方に大変お世話になったことに感謝申し上げます。 精密加工事業部 清水 洋



(株)アルモ

昨年に引き続き出展しました。ブース位置を一年前より確保していたこともあり、ブースへの訪問者数はかなり多いイメージでした。展示品はここ数年マンネリ化しているの、次回出展できるなら展示品や見せ方を工夫したいと思えます。 代表取締役 柴木 樹



(株)オータニツール

来場者が多いことに驚くと同時に、各企業の動きが活発になってきたことを感じる事が出来ました。お客様と対話するなかで、何に興味を持ち、どのようなニーズがあるのかを認識することで、今後の方向性のヒントを得たような気がします。有意義な3日間を過ごすことができ、関係者の皆様ありがとうございました。 専務取締役 大谷 秀利



(有)大塚木型製作所

この度の機械要素はコロナの移行の後の開催という事で非常に多くの来場者となりました。更に早めに小間位置を決めたこともあり良い位置で出展でき普段より多くの名刺交換ができました。次回も更に良い出会いができるように準備したいと思えます。 代表取締役 矢代 慎也



(株)科学計器研究所

機械要素技術展に初出展につき、どのような反響があるか手探り状態での参加となりました。機械で出せない精度を摺合わせで仕上げる技術を実演させて頂きました。地味な作業ですが、すごい技術だと色んな方に理解して頂けて、嬉しく思います。 製造グループ 課長 笠原 隆司



(有)小林超硬研磨

今年の東京M-Techはここ数年で1番の賑わいだっただけだと思います。それに比例して当社ブースにもたくさんのお客様からお越し頂きました。名刺交換させていただいたお客様も今まで関わりの薄かった業界の方が多く、そういう方々と繋がる事が出来たのは大変ありがとうございました。最後にNAZE事務局及び、関係者の皆様には大変お世話になりました。 営業・技術1班 三本 亮太



(株)タワシテック

初めての東京ビッグサイトでの展示会への出展ということで、いろいろと心配しておりましたが、NAZE事務局及び関係者の皆様方、共同出展企業様のご協力やアドバイスでいろいろとご助力いただき、誠にありがとうございました。県外企業様からいろいろと情報をいただき大変、参考になりました。 代表取締役社長 田中 晃



(株)トクサイ

当社は今回初めてM-Techのブースに出展しました。右も左もわからない我々をNAZE会員の皆様は暖かく受け入れて下さり、非常に貴重な体験が出来ました。幸いにも展示品に興味を抱いて下さるお客様も多く、BtoB中小製造業の認知度向上には展示会出展が有効であることを改めて気づかされました。 業務部 小島 広樹



長岡スプリング(株)

3日間、多くのお客様に弊社ブースへお立ち寄りいただきました。様々な業種の方と交流することができ、新たな分野での可能性が広がりました。数年前と比べ、お客様の要望にも変化が表れております。今後もきめ細かな対応が必要だと感じさせられました。 代表取締役社長 山崎 宣明



(株)長岡歯車製作所

アフターコロナ時代、多くの来場者を迎える展示会でした。弊社ブースにも初めてのお客様や、仲間から紹介された方々、既存のお客様など大勢が訪問してください。さながら3日間限定-長岡歯車製作所、東京営業所となりました。ありがとうございました。 代表取締役 加納 孝樹



(株)プレテック・エヌ

当社としては久しぶりの東京ビッグサイトでの展示会でした。お客様からの生の声を聴くことが出来た事はいい経験になりました。これからも継続的に参加させてもらいたい縁があればと感じています。 製造部工機課課長 高橋 徹



(有)毛利製作所

弊社としては、2020年のコロナ禍以来の出展になります。来場者の人数はコロナ前と変わらない状態に感じました。5軸加工などよりも、より専門性の高い製品の引き合いなどが多かったように感じました。今回もNAZE事務局の手助けがあり助かりました。 代表取締役 毛利 聡一



(有)渡辺合金铸造所

ここ数年、展示会へ出展しているのですが、毎回必ず「鋳物屋が廃業して困っている」「新たな鋳物屋を探している」といった声を耳にします。今後もさらに業界の高齢化が進み廃業する同業が全国的に増えると思うので、継続して出展し、鋳物をアピールしていきたいと思えます。 代表取締役 渡辺 潤一郎



長岡で頑張る企業、起業家を応援します!

〒940-2127

新潟県長岡市新産4丁目1番地

NICOテクノプラザ内 NAZE事務局

TEL:0258-42-8700 E-mail: info@naze.biz

<http://www.naze.biz>

検索



ホームページ



NAZEチャンネル



Facebook

NAZE Style

Nagaoka Activation Zone of Energy

◇「ナゼスタイル」は長岡で頑張る企業・起業家を応援するフリーペーパーです。(季刊誌発行)

vol. 84
2023.07.31

NAZE令和5年度第1回通常総会開催

5月29日(月)に長岡ランドホテルで、通常総会を開催しました。

理事2名の交代、令和4年度事業報告・収支決算、モンゴル高専人材活用事業に係るJICA草の根事業採択に伴う補正予算などの議案を承認いただきました。その後、今年度、NAZEが取り組む下記事業について説明させていただきました。

1 1モンゴル高専人材活用事業

JICAの「草の根技術協力事業」に採択され、NAZEがこの事業の実施団体として、事業進捗、会計などの事業全体管理、企業のものづくり人材採用、DX化支援などに取り組んでいくことになりました。この事業に関わる優秀なモンゴルの高専生が、卒業後、NAZEをはじめとした市内企業に1人でも多く、ご就職いただけたらと期待しています。

2 2製造業伴走型デジタル化支援事業

自動見積システムと検索機能、それにこの度開発したチャートメーカーをシームレスで繋ぐ事によるデジタルチェーンの構築事例について発表がありました。

3 3NAZE学園 今年度のNAZE学園の取り組み内容と受講生募集について

4 4矢野理事から

DICONスポンサー賞2部門を受賞した爆安・爆速の不良検出システムが紹介されました。製造現場で不良が出る時に発する異音を音の波形をAIで検出するシステムが評価され、この開発内容が7月にNHKで放送されるそうです。ぜひ、ご覧ください。



モンゴル3高専DX人材の企業就業プロジェクト

NAZEでは、昨年度初めて実施したモンゴル3高専生による市内企業インターンシップ事業について、プロジェクトを継続的・計画的にすすめていくため、長岡市および、長岡高専の協力のもと、国際協力機構(JICA)の「草の根技術協力事業(地域活性化型)※2」に事業実施団体として採択されました。今後は、長岡市と連携して下記の3つのプロジェクトに取り組み、高度外国人材の企業への就業を推進していきます。

活動1~3を1回/年サイクルで3回実施

活動1 モンゴル高専産業DX人材育成

活動2 外国人材活用環境整備

活動3 企業インターンシップ

企業での就業によるDX化・グローバル化を推進

長岡版産業DX人材育成プログラム

継続的な人材選流技術移転

インターン・就業による人材交流

モンゴルでの新産業創出推進

活動1: モンゴル3高専教員、学生の「産業DX人材育成」・AI、IoT、ロボティクス等の教育プログラムを開発、実施する。

活動2: 企業の「外国人材活用環境整備」・モンゴル高専生を受け入れるための社内体制整備等のプログラムを実施する。

活動3: モンゴル高専生の「企業インターンシップ」・市内企業でのインターンシップで卒業後の就業を目指す。



企業の困りごとを伴走型で解決

NAZEでは令和4年度から引き続き「製造業デジタル化実装モデル事業」を実施しており、会員企業のデジタル化を伴走型で支援しております。長岡アイティ事業協同組合と連携し、ITの専門家とNAZE学園講師であるものづくり専門家が支援チームを結成することで、製造業のカイゼン活動にマッチしたデジタルツールの開発が可能となっております。

製造業デジタル化実装モデル事業では、デジタルツールの開発スタイルに2つの特徴があります。1つは、仕様を確定してから開発を行う通常のシステム開発手順を取らないことです。多くの中小企業がシステム制作会社と仕様決めを行うことが難しいと感じています。出来上がったデジタルツールが思っていたものと違うことや、実際の現場では想定通りとならず、使えないもの、または追加費用を払って改修を行うといった経験が背景にあります。このことから、製造業デジタル化実装モデル事業では、仕様書を作成することに重点を置かず、最低限のドキュメントのみを作成、プロトタイプ制作からスタートするなど状況に合わせた柔軟な対応をしています。2つ目は、アジャイル開発手法(短いサイクルで小さな単位の開発を繰り返す手法)を積極的に活用していることです。比較的短期間でデジタル化が体感できるので、デジタル化の取り組みを継続しやすくなります。

令和4年度は7社がこの事業に取り組みました。今年度は既に4社が取組中、6社が事前相談中となっております。中小製造業の「辛い所に手が届く」デジタルツールが開発できる事業として成果をあげてきています。

是非、お気軽にNAZE事務局へご相談ください。



デジタル技術を活用した現場改善リーダーの育成を目指す

NAZE学園を開催。

ものづくり製造業の現場において、デジタルツールを活用した現場改善リーダーを育成する目的の長岡オリジナルカリキュラムの「NAZE学園」を開催します。単なるデジタルツールの導入ではなく、改善の手法としてのデジタル活用手法を初期から応用、実践までステップアップで学びます。大きくは座学講座、現場実習、改善実習といったステップです。特に大きな特徴である会員企業の現場をフィールドとした現場実習は、普段の自社と違った現場を体験でき、その中での問題点を見つける力が養えます。また今年からデジタル改善事例紹介と受講者の抱えるデジタル改善テーマをワークショップ形式で座学講座の中に新たに組み込みます。

8月から10月の3カ月間の毎週水曜日(一部除外有)の9時から17時の合計13日間のカリキュラムです。また、後半はテーマ選定から分析、解決手法までチーム活動となります。

チーム内同士は勿論のこと受講生間での人的ネットワークが構築できます。3カ月のカリキュラムの修了時には、デジタル活用が身についた社内の改善リーダーとなっている事を期待します。

NAZE学園カリキュラム

8月~9月 ミライエ長岡



講義(改善一般/デジタル)

9月 実習企業



現場実習 3日間

10月 ミライエ長岡



改善実習(現場改善/デジタル)

6/12日

第1回技術部会・オープンセミナー ～生成AIの発展との活用とツール紹介～

講師：ユニオンツール株式会社 生産技術部 副部長 篠崎 亮 氏
生産技術部技術二課 新保 貴也 氏

今話題のChatGPTを活用したツールを開発したNAZE会員企業であるユニオンツール(株)から講師を務めていただきセミナーを開催しました。多くの方から参加いただき、大変参考になったと、ご好評をいただきました。(参加者：36名)



参加者の声

久保誠電気興業(株)技術本部デジタルチーム担当副部長 山際 友喜 様

このセミナーでは生成AIの最新情報やChatGPTの業務利用事例について学ぶことができ、またChatGPTの[幻覚]や[学習する/しない(機密漏えい防止)]についても詳しく説明していただきました。そして、講演者の方が4月から検証を始め、わずか2か月でChatGPTのAPIを使用した社内システムを開発した話には驚きました。セミナーを通じて、ChatGPTの活用によってコミュニケーションや問題解決の領域で進歩期待できることを実感しました。ChatGPTの活用に関する知識を深めることができ、今後の生成AIの進化に対する期待も高まりました。ありがとうございました。

6/16金



第18期 NEXT道場スタート! ～次世代の経営幹部(後継者)育成のための経営塾～

今年度で18回目を迎えるNEXT道場が9名の受講者を迎えて開校しました。一部カリキュラムの見直しをおこない、新たに「事業計画の策定」講義を設け、会社全体を俯瞰して各部門と連動した事業計画をつくる意義とスキルの習得を目的としました。また、受講生各自が抱えている業務上のテーマをSWOT分析の手法を使い、全9回の講義を参考にして課題解決の手法を学び、最後の修了式で発表します。

DCON2023 企業賞ダブル受賞

令和5年4月29日(土)、30日(日)に「第4回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2023(DCON2023)」が東京の日経ホールで開催され、長岡高専からプレラボチームが参加しました。

DCON(ディーコン)は、高等専門学校生が日頃培った「ものづくりの技術」と「ディープラーニング」を活用した作品を制作し、その作品によって生み出される「事業性」を企業評価額で競うコンテストです。2019年には株式会社InetgrAIの創業メンバーが優勝し起業へのきっかけとなりました。長岡高専プレラボチームは1億5千万円の企業評価額をいただき、順位は6位となりました。また、AGC賞とTOPY賞の2つの企業賞を受賞する栄誉にあずかりました。受賞理由には、音に焦点を当てた異常検知の実現に挑戦する姿勢と、製造現場への深い関心、そして難しいとされていた音による異常検知に挑戦していることに高い評価がなされました。

実は、このテーマ昨年度のNAZEチャレンジ事業がきっかけとなり、高専生が何度もコンドウ印刷(株)さんにお邪魔したりしながら進めていたプロジェクトだったのです。産官学が連携しながら新しい技術にチャレンジし社会実装を目指す。いい話ではないですか。これからもNAZEの皆さんと一緒に長岡の街を盛り上げていきましょう。

